

令和6年度 飯塚市グローバル人材育成研修事業

研修報告書

2025. 3. 24~2025. 3. 31



サニーバールコミュニティセンターにて

飯塚市

目 次

研修生・引率者名簿	・・・	1
実施日程	・・・	2
現地研修行程	・・・	3
事前研修の記録	・・・	4
現地研修の記録	・・・	6
研修報告書	・・・	10

※研修生の学年については、令和7年3月31日時点のものです。

研修生・引率者名簿

【研修生20名】

	氏 名		学 年	班	備 考
1	安部 瑞姫	あべ みずき	高校2年生	2班	班 長
2	有吉 心優	ありよし みゆ	中学2年生	3班	
3	安藤 桃実	あんどう ももみ	中学2年生	4班	
4	井上 蓮	いのうえ れん	中学3年生	1班	
5	梅野 翔太	うめの しょうた	中学1年生	1班	
6	小野 未来	おの みらい	高校2年生	3班	班 長
7	笠井 柚羽	かさい ゆずは	中学2年生	2班	
8	亀田 桜楠	かめだ さな	中学3年生	3班	
9	倉地 那奈	くらち なな	中学3年生	4班	
10	小関 眞歩	こせき まほ	中学1年生	2班	
11	佐々木 太一	ささき たいち	中学3年生	2班	
12	新宅 由麻	しんたく ゆま	高校2年生	4班	統 括
13	砂川 諒	すながわ りょう	中学3年生	3班	
14	田村 寧々	たむら ねね	中学2年生	1班	
15	遠部 緑香	とおべ のりか	高校1年生	4班	班 長
16	畑瀬 未帆	はたせ みほ	中学2年生	3班	
17	平岡 志帆	ひらおか しほ	中学3年生	4班	
18	福島 京	ふくしま みやこ	高校1年生	1班	班 長
19	満倉 康平	みつくら こうへい	中学3年生	1班	
20	山本 美彩	やまもと みあや	中学3年生	2班	

※50音順

【引率者4名】

	氏 名		所 属	役 割
1	桑原 昭佳	くわばら あきよし	飯塚市教育委員会教育長	団 長
2	松宮 央	まつみや よう	飯塚市立飯塚第一中学校	生徒指導
3	桑岡 有吏恵	くわおか ゆりえ	飯塚市立穂波東中学校	生徒指導
4	武本 慎太郎	たけもと しんたろう	飯塚市経済部国際政策課	事 務 局

実施日程

	期 日	場 所	備 考
第1回 説明会	12月8日(日)	市役所本庁舎	事業説明、渡航手続き等
第1回 事前研修			異文化理解研修 ホームステイの心得
第2回 事前研修	1月19日(日)	市役所本庁舎	自己紹介ゲーム 英語による1分間スピーチ
第3回 事前研修	2月9日(日)	市役所本庁舎	シリコンバレーセミナー コミュニケーション研修
第4回 事前研修	2月23日(日)	福岡アメリカン センター	留学体験談 グループワーク
第2回 説明会	3月4日(火)	市役所本庁舎	渡航手続き等
第5回 事前研修	3月9日(日)	オンライン (各自宅等)	ホストファミリーとのオンライ ン交流会
現地研修	3月24日(月) ～ 3月31日(月)	アメリカ サニーバール市	ホームステイ シリコンバレーツアー 学校登校
第1回 事後研修	4月13日(日)	市役所本庁舎	現地研修の振り返り 帰国報告会準備
第2回 事後研修	4月27日(日)	市役所本庁舎	現地研修の振り返り 帰国報告会準備
帰国報告会	5月11日(日)	穂波交流センター	現地研修の報告会

現 地 研 修 行 程

日付	場 所	スケジュール
3月24日 (月)	市役所本庁舎 福岡空港 羽田空港	出発式 羽田空港へ サンフランシスコ空港へ
	サンフランシスコ空港 サニーバール市	着後、サニーバール市へ移動 ウェルカムセレモニー ホストファミリーと対面
3月25日 (火)	サニーバール市近郊	シリコンバレーツアー ・ヒューレットパッカードガレージ ・スタンフォード大学 ・グーグル本社 ・サニーバール歴史博物館
3月26日 (水)	サニーバール市	学校登校
3月27日 (木)	サニーバール市	学校登校
3月28日 (金)	サニーバール市	学校登校
3月29日 (土)	サニーバール市	ホストファミリーと過ごす フェアウェルパーティー
3月30日 (日)	サニーバール市	サンフランシスコ空港へ
	サンフランシスコ空港	成田空港へ
3月31日 (月)	成田空港 羽田空港 福岡空港 市役所本庁舎	羽田空港へ 福岡空港へ 飯塚市役所へ 着後、帰国式

事前研修の記録

第1回事前研修 令和6年12月8日(日)



異文化理解やホームステイの心構え



ユリシスのメンバーからアドバイス①

第2回事前研修 令和7年1月19日(日)



ユリシスのメンバーからアドバイス②



自己紹介ゲーム①



自己紹介ゲーム②



自己紹介ゲーム③

第3回事前研修 令和7年2月9日(日)



シリコンバレーセミナー



テーマごとに英語でコミュニケーション練習

第4回事前研修 令和7年2月23日(日)

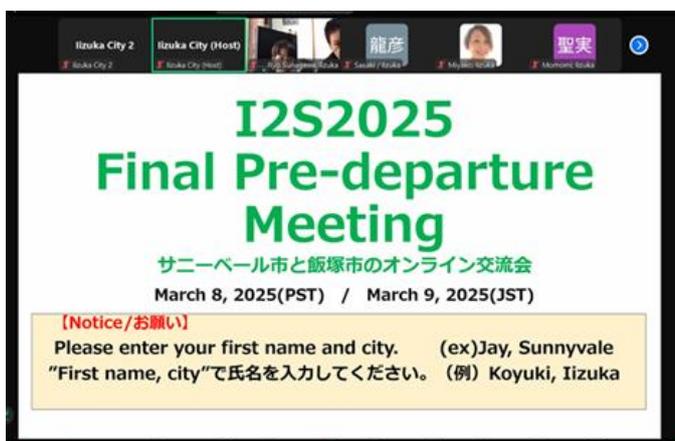


福岡アメリカンセンターで留学体験談を聞く

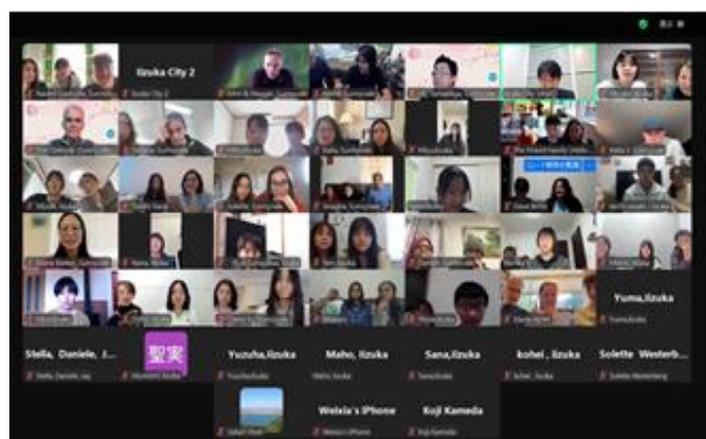


飯塚市の紹介について大学生からアドバイス

第5回事前研修 令和7年3月9日(日)



ホストファミリーと初めての対面



現地研修の記録

出発式 令和7年3月24日(月)



市長あいさつ



研修生決意表明 新宅 由麻



ウェルカムセレモニー 令和7年3月24日(月)



サニーバール姉妹都市協会会長の歓迎挨拶



一日研修 ～ シリコンバレーツアー 令和7年3月25日(火)

HP ガレージ



スタンフォード大学



グーグル本社



サニーバール歴史博物館



学校登校 令和7年3月26日(水)~28日(金)

サニーバールミドルスクール

コロンビヤミドルスクール

ホームステッドハイスクール

フリーモントハイスクール



フェアウェルパーティー 令和7年3月29日(土)



研修生お礼の言葉 安部 瑞姫



研修生お礼の言葉 梅野 翔太



研修生お礼の言葉 畑瀬 未帆



飯塚市代表お礼の言葉 引率者 桑岡 有吏恵

ホストファミリーとのお別れ 令和7年3月30日(日)



帰国式 令和7年3月31日(月)



引率者代表あいさつ 松宮 央



研修生代表あいさつ 小野 未来

Plan(計画)

現地の方と積極的に交流し、異文化を体感する場面、英語を使う場面をより多く作り出すことに挑戦したいです。研修は言語や文化の面で自分が少数派になる貴重な機会であり、苦手意識のある英会話スキル向上のチャンスだからです。この目標を達成するため出発までに英語力、コミュニケーション力の向上と、流行などの話題になる情報集めに取り組みたいです。

Do(実行)

研修前に立てた目標について、異文化交流の点ではアメリカと日本の高校の違いや、私が驚いたことを現地の友達やホストファミリーに伝えられたので達成できたと思います。しかし、英語を使う場面を増やすという点では、英語をよく理解できなかつたので、うまく会話を続けることができませんでした。

Check(評価)

異文化交流の目標を達成できたのは、事前研修で様々な方からの「自分の思ったことは相手にはっきり伝えた方がいい」というアドバイスを出発前から意識できていたからだと思います。会話を続けることができなかったのは、言いたいことを英語にできなかつたり表現を考えすぎて会話が終わってしまったからだと思います。

Action(改善)

1週間の研修で、自分が相手に伝えたことに対してすごく肯定してくれたり、まさにアメリカ文化なオーバーアクションで気持ちを伝えてくれたことがすごく嬉しかったです。私も日常生活から友達などに対してポジティブな声かけを積極的にしていきたいと思います。

現地研修の思い出

初めての海外で少し緊張しましたが、充実した1週間を過ごすことができました。1日研修ではスタンフォード大学やGoogle社の敷地の広さに驚きました。歩いてても歩いてても建物が並んでいて、アメリカの土地の広大さを感じました。大学の建物の外は自然が豊かで、またGoogle社の周辺にはユニークなアンドロイド像などがあって、すごく可愛かったです。学校登校日にはホームステッド高校に通いました。高校にはカフェテリアがあって青空の下でご飯を食べたり、教科ごとに教室を移動したりと私の高校とは違う高校生活を過ごしました。私が一番驚いたのは、班机が基本で話し合いが中心の授業だったことです。とても刺激的な3日間でした。ホストファミリーと過ごす最終日には、自然を感じることができる場所やサンフランシスコの観光スポットへ行き、沢山の素敵な写真を撮ってもらいました。帰国する日の朝に思い出が詰まったアルバムをプレゼントしてくれて、宝物ができました。思い返してみると、「もう少し頑張れたな…」と思うこともあります。異国の地で1週間、挑戦の日々を送れたことでまた少し自信がつけました。貴重な経験をさせてくれた全ての方々に感謝したいと思います。



Guan Family



中学2年生

ありよし みゆ
有吉 心優

Plan(計画)

私は現地でたくさん人とコミュニケーションをとることに挑戦したいです。そのために、出発まで英会話の練習やリスニング、日本を知ることに取り組み、サニーベールではそれを活かして新しいことを見つけて飯塚に帰ってきたいです。殻を破って、ポジティブに1週間を過ごしたいと思っています。

Do(実行)

私は現地でたくさんコミュニケーションをとり、たくさんの知識を持って帰って来るという目標で、ホストファミリーや友達に話しかけ日本に帰っても仲良くできる友達ができました。現地の方たちからたくさんのお話を学ぶことができ、私は目標に掲げていたことを達成出来ました。できるだけ人と話す時間を作りに行き、ホストファミリーたちとは、たくさん話し、知ることができ、日本で活かせる経験ができました。

Check(評価)

私がプランを全て実行し、ホストファミリーや友達に積極的に話しかけることができたのは、現地に行く前に、英会話の練習をしたり、なぜ私がこの研修に参加したのか考えて、マインドセットしたことだと思います。しかし、自分の意見をしっかりと伝えられない時があり悔しい思いもしました。でもその経験も含めてplanを全て実行できた自分を評価したいです。

Action(改善)

積極的に話すことを心がけていたが、十分な英語力がなく上手く伝えられない時がありました。まずはユリシスに入り色々な方に自分の意見を言えるように頑張っている悔しかった経験を糧に英語力を伸ばしていきます。私は国際的な仕事がしたいです。その環境では英語を話せるのが基本なので、英語力向上の中で何か自分の強みを見つけて頑張ります。

現地研修の思い出

現地での思い出は全て濃い時間で、飛行機の中も、現地に着いた時のワクワクも全て私の大切な思い出です。その中でも心に残っているのが、学校に行ったこと、そしてシリコンバレーツアーです。学校では同世代の友達ができたり、色々な授業を受けたり、日本との違いを見つけることができました。シリコンバレーツアーの日は、アメリカでも珍しい暑い日で、とても疲れたのですが、スタンフォード生から話が聞けたりシリコンバレーという世界から見てもすごい地域に自分の歳で行き、本物を見て感じたこの経験は絶対に将来に活かしたいと思えることばかりでした。ホストファミリーと馴染めるのか不安でしたが「私はお母さんだよ、そして家族でここはあなたの家だよ」と言ってくれてとても安心しました。たくさん温かい言葉をかけてくれて、帰国の時には「アメリカにまた戻っておいで、美味しい料理を作って待ってるからね」と言ってくれました。1週間の中で想像以上のものを現地の方からもらいました。シスターもずっとハグをしてくれて現地の友達も泣いてくれて、本当に私はこの研修に参加し、「サニーベール」に行けたことがすごく幸運だと思います。現地を離れる時はすごく泣いたし、思いを伝えられない自分の英語力が悔しかった。でも絶対に私はアメリカに戻る！私の夢の1歩に関わってくれた現地の方、飯塚市に感謝したい。そしてもっと色々な国の言語を学び、世界に飛び出たいです。



Shah Family



Plan(計画)

私は、お互いの国について英語で話すことに挑戦したいです。そのために、出発までにサニーベールと飯塚の歴史の共通点や有名なものを調べます。また、現地では調べたことを活かし、英語で話してお互いの国の理解を深め、交流が終わったら日本の友達や家族に伝えていきたいです。

Do(実行)

私は英語でお互いの国について話すという目標について、事前研修内で飯塚市について書いてある英語のパフレットで学習したことにより、ホストファミリーと飯塚市について話すことができました。しかし、現地の方の英語が早く、聞き返すことが多かったです。

Check(評価)

お互いの国について英語で話すことができたのは、出発前に飯塚市のことを書いてあるパフレットの英語版と日本語版をどちらも読んでいたことが主な理由だと思います。しかし、そのほかにもサニーベールの歴史も同じくらい調べていると、スムーズに現地の方との会話ができたと考えます。

Action(改善)

サニーベールの学校に登校したという経験を活かして、異文化交流に興味を持ち、国際的な分野で活躍できるよう、これからも英語の学習を続け、多様な文化を受け入れ、日本との違いを考えて伝えていきたいと思っています。また、これからもサニーベールで出会ったホストファミリーや友達との交流を続けたいです。

現地研修の思い出

私の現地研修での思い出は大きく分けて三つあります。

一つ目はホストファミリーと家で過ごしたり出かけたりしたこと。家ではカードゲームをして遊び、外ではアメリカで有名な食べ物を食べたりサンフランシスコに行ったりしました。現地でしか見れないものを直接みることができ嬉しかったです。

二つ目は現地の学校でたくさんの友達ができ、アメリカの学校は私服だしメイクもネイルも髪染めも良くて自由なことを感じました。一番びっくりしたのは授業中にみんなお菓子を食べながらで教室も違って日本とアメリカの違いを肌で感じる事ができてよかったです。と思いました。

三つ目はスタンフォード大学で、工学、生物学、自然科学の分野についての話を聞いたことです。現地の学生の方からどういう経緯で入学しようと思ったかを聞くこともできました。学校はとても広く、自転車や電動キックボードで移動している方がほとんどで日本との違いを感じることができました。

このようにアメリカで学んだ多様な文化の違いを受け入れ、異文化交流を続けていきたいし、自分が国際的な分野で活躍できるように日々英語の勉強をし、サニーベールの友達とも連絡をとり、学んできたことを周りに伝えていきたいです。



Sueptitz Family



中学3年生

いのうえ れん
井上 蓮

Plan(計画)

私はホストファミリーや学校の人たちと積極的に会話をしたいです。私は自分からコミュニケーションをとることが苦手ですが、今回の研修では英語で話す経験を通して、少しでも苦手意識を克服することができたら良いと思います。そのために、出発までに話の話題を考えておいたり、日本について自分がもっと調べたりして、質問されたときに答えられるような状態にしておこうと思います。

Do(実行)

私はホストファミリーや学校の人たちと積極的に会話をするという目標を立てていました。実際に会話してみると、野球や音楽などの共通の話題で盛り上がりました。私は、「好き」という感情は国や性別、年齢などの違いを越えて、人と人を繋ぐ共通のものだと気づくことができました。そして、こんな機会は今二度とない！と思いながら過ごしたので、やりたいことを悔いなくすることができました。

Check(評価)

積極的に会話をするのができたのは、出発前に日本や日本のお土産についてどんなことを伝えたいのかを考えていたからだと思います。特に学校登校があった日は、日本とアメリカの学校の違いについて聞かれ、日本の学校がどのようなものなのかをホストファミリーに伝えることができました。しかし、何を聞かれたのかが分からず、答えられなかったときもあったので、リスニングの練習もしていれば良かったと思います。

Action(改善)

今回のサニーベールでの研修を活かして、これからの日常生活でも積極的にコミュニケーションを取っていききたいと思います。普段と異なる環境と言語の中で過ごしたことで、世界は自分が思っている以上に広く、また、まだ知らない世界も多いということを感じました。そのため、今まで以上に様々な視点、角度から物事を考え、コミュニケーションを取る上でもそのことを大切にしていきたいと思います。

現地研修の思い出

私は現地研修での全てのことが楽しかったのですが、特に3日間の学校登校が思い出に残っています。

1日目の朝、私はバディの子たちと会いました。そのうちの1人が音楽を聴くのが好きで、あるK-POPグループが好きだと教えてくれました。偶然、私も同じグループが好きで色々な話をしました。その後の授業でもK-POP好きの子たち何人かとたくさん話しました。私にとってK-POPが好きな海外の友達ができるのは初めてだったので、とても嬉しかったです。私は、「音楽」というものにはどんな違いも無くすることができる力、誰でも繋がることのできる力があるということを感じることができました。

また、体育の授業ではフラフープを使ってチームごとにリレーのようなものをしました。私たちのチームは、1位を目指していましたが、惜しくも2位となってしまいました。私たちはお互いに励まし合い、2回目も頑張ろうと高め合いました。そして、2回目のリレーでは見事1位になることができました。みんなで心を一つにして協力したからこのような結果になったのだと思います。

私は、学校登校で多くのことを学んだり、改めて気づかされたりしました。これから色々な経験をするなかで、新たに気づくことも多くあると思います。そのチャンスを逃さずに生活していきたいです。



Chan Family



Plan(計画)

僕は、サニーベールの学校でたくさんの友達を作りたいです。なぜなら、友達が多くなると会話もはずんで、アメリカの学校生活を楽める上、英語を話す勉強にもなるからです。そのために、気を引くような名刺を作ったり、自分の好きなことや興味のある事といった、自分に関することを英語で言えるようにしていきたいです。

Do(実行)

僕は、サニーベールの中学校でたくさんの友達を作るという目標について、現地で名刺が足りなくなるほど名刺を配ったり、日本の話などで盛り上がったため、たくさんの友達を作るのは達成できた。また、その人たちと話しているときに自分の好きなことや興味のあることについても言えたので、自分に関することを言うのも達成することができた。

Check(評価)

僕は、サニーベールの中学校でたくさんの友達を作ることができたのは、出発する前に名刺をたくさん作ったり、何を言うかを事前に決めていたからだと思っている。これらの行動は良かったが、名刺をより多く作っておいたり、日本に関するパンフレットなどをもっと多く持っていけばより話が弾んでいたかもしれないと思っている。

Action(改善)

僕は、現地で色々な人と話していった経験を活かし、これからは初対面の人や困っている人にもためらいなく話して、交流の輪を広げて行こうと思う。また、hpやGoogleといった大企業も最初は失敗ばかりしていきながら成功させて行ったことを知ったので、これから自分が物事に挑戦するときは、失敗することを恐れずに、むしろ失敗をたくさんして行こうという考えで挑戦していこうと思う。

現地研修の思い出

僕は、この一週間とても有意義な時間を過ごすことができた。中でも特に印象に残っているのは、学校登校だ。

知っている人が誰もいない中、最初はとても不安でたまらなかった。最初の授業では何を言っているかもさっぱりわからなく、さらに不安になった。しかし、歴史の時間にグループワークがあった。その時に周りにいた人とたくさん話した。授業の方は大丈夫かなと思ったが、先生も何も言わなかったので自由だなと感じた。同時に不安な気持ちから解放された気がした。昼食の時には新しくできた友達と名刺や日本について話した。また、トランプのスピードもしていてとても和やかな雰囲気になった。そうして、あっという間に3日間が過ぎていった。

最初は、ホストブラザーと違う学校になって正直少し残念に思ったが、いってみると話しかけてくれる人や名刺を欲しがる人が多かったので、とても面白くて楽しかった。日本の学校より自由そうで、でもちゃんとしているところが印象に残った。また、生徒の格好が一人一人何でも良かったところも、生徒一人一人の個性を大事にしているなど印象に残った。



Berol Family



おの 未来
高校2年生 小野 未来

Plan(計画)

現地の高校で日本に帰ってからやり取りするような友達を作りたいです。現地の高校生と会話を楽しめるように英語のスピーキング練習や文法単語の基礎固めを徹底したいです。

ホストファミリーと仲良くなっているいろいろな思い出を作りたいです。一緒に料理したり、出掛けたり、ご飯を食べたりしたいです。現地でホストファミリーとやりたいことやいきたいところを事前にたくさん考えたり調べておいてメモに書き留めるなどしようと思います。一週間の時間を一瞬でも無駄にせず、ファミリーと楽しみたいです。

Do(実行)

現地での友達をつくるという目標に関して、ホストシスターを通じてホストシスターの沢山の友達と交流し仲を深めることができました。学校でスマホゲームを一緒にしたりPCで動画を一緒にみたり好きな音楽を共有したりとよい経験ができました。

Check(評価)

これができたのはホストシスターやその友達が優しくったりこちらに友好的だったのもありますが、私からもやりたい！と言えたのがよかったです。友達がこれやらない？といったら明るく返せたので上手くやれたなとおもいます。また気になったことはその場で聞けたのでよかったです。

Action(改善)

ホストシスターやホストファミリー、友達と接するうちに言語学や外国の文化に興味を持つようになりました。大学では言語・国際関係のことを学びたい、国際関係の仕事をしてみたいなどこの研修のおかげで将来へのビジョンをつくることができました。

現地研修の思い出

ホストファミリーと沢山外出に行ったり、ショッピングに行ったりしたときに会話が途絶えなかったのが嬉しかったです。ホストファミリーは世間話に自分達のことを友達のように話してくれました。すごくそれが楽しくて、それを聞き取れることも自信になったし、頑張つて伝えようと努力できたのもよかったです。ショッピングモールにあるおもちゃコーナーでホストシスターと遊んだり、日本のグッズ店ではしゃぎあったりしました。二日目三日目辺りで体調を崩してしまって、ホストファミリーが大きなモールに連れていってくれたのにあまりはしゃぐことができずにいたことがありました。その時正直にホストファミリーに吐き気がして体調が悪いと伝えると、ホストファミリーはとても心配してくれてほんとの家族みたいに扱ってくれました。次の日の朝ごはんにお米を炊いてくれたり、車に乗ると毎回よってないか聞いてくれてほんとに親切で良い人たちに巡り会えたなとおもいました。また、現地の高校生と話しているうちに高校で流行っているものを知れたり、日本の高校で友達とふざけあうようなノリが海外でもできて、すごく安心したし、言語の壁を越えられたような気がしました。最後の日にホストシスターがいちばん好きだと言っていた映画をみました。そのあとでさよならが悲しいと言われて泣きそうになりました。この研修に参加できてとてもうれしかったです。



Castruita Family



中学2年生

かさい ゆずは
笠井 柚羽

Plan(計画)

私は、自分から学校やホームステイ先で現地の方々に話しかけることに挑戦したいです。そのために必要なことは、質問や話を聞きとり、答える力だと思います。私はまだ、完璧にはできていないところがたくさんあるので、1日10分以上は英語を聞き、文法や英単語の勉強をしています。サニーベールでは自分が学んできたことを活かし、たくさん友達をつくりたいです。

Do(実行)

私は自分から学校やホームステイ先で現地の方々に話しかけるという目標について、達成することができました。勇気を出して、「一緒に写真を撮ろう。」「好きなことは何?」などたくさん話しかけて交友関係を深めることができました。日本に帰ってからも、サニーベールの人たちと連絡を取っているので、これからも交友関係を続けていきたいです。

Check(評価)

私が サニーベールで自分から学校やホームステイ先で話しかけることができたのは、現地の方々の優しさがあってこそだと思います。出発前に、英語の勉強に力を入れていましたが、現地に行くとき緊張で話せなかったりしてしまっていました。そんなときでも、現地の方々は優しく接してくれました。彼らの優しさがあったから、私は目標を達成することができたのだと思います。

Action(改善)

今回の留学を通して、もう一度海外に行きたいと思いました。初めての海外で慣れないことも多く、また、会話することはできないものの、聞き取れなかったり、答えることができなかったり、翻訳機を使ったりと、後悔していることもあります。今回の経験を活かし、次の留学につなげられるようにこれからも英語の勉強を、頑張ります。

現地研修の思い出

わたしの現地研修での思い出は2つあります。1つ目は、コロンビア中学校です。日本の学校とは違い、授業を自分で選択することや、授業中にお菓子を食べても良いなど、日本の学校との違いに驚きました。教科や学年ごとにたくさんの教室があり、授業ごとに移動するのは大変でした。けれども、道をすれ違う時に、あいさつをしてくれたり、話しかけてくれたりと、たくさんの優しさを感じることができました。特にコロンビア中学校で、思い出に残っているのは、2日目の違う学校との合同のイベントです。生徒達でプレゼンをしたり、他校の子といっしょにゲームをしたり、演奏会をしたりと、日本の学校では考えられことがたくさん行われていました。特にゲームが行われたときの熱気は今でも鮮明に覚えています。バディの子も、現地でできたお友達も、みんな優しく、写真を撮って思い出を残せたことは本当にうれしかったです。

2つ目の思い出は、ホストファミリーと出かけた海です。風邪でなかなか話せていなかった弟くんもいっしょに海に行きました。少し距離を感じていた弟くんとも、いっしょに凧揚げをしたり、写真を撮ったり、海で遊んだりするうちに距離を縮めることができました。お昼に食べたレストランのハンバーガーがあまりにも大きくて、みんなで笑い合ったことも覚えています。6日間という短い時間の中でも、たくさんの思い出ができて嬉しかったです。



Barker Family



中学3年生

かめだ さな
亀田 桜楠

Plan(計画)

私はサニーベールのホームステイで、友達をたくさんつくれるように頑張りたいです。そのため、私は普段人見知りをしがちですが、人見知りをしないようにコミュニケーション能力をつけたいです。また基本的な会話ができるようにスピーキングの練習やリスニングの練習を行いたいです。そしてたくさんの人と仲良くなってサニーベールで色々なことに挑戦したいです。

Do(実行)

現地の人とたくさん交流するという目標について、事前研修内で海外の人との接し方や文化、生活習慣などについて学んだため、友達をたくさん作り、日本に帰ってきた今でも連絡を取り合うくらいに積極的に交流が出来ました。

Check(評価)

現地の人と盛んに交流出来たのは、出発前に名刺やマイカードの作成をしていたことや、お菓子などの交流の手助けになるようなものも準備したことが主な理由だと思います。しかし、その他にももう少しスピーキングの練習を頑張ることでさらに交流が出来たと考えます。

Action(改善)

今回の研修で得た、リスニング力やコミュニケーション能力を活かして、これからの学校生活や日常生活で積極的に英語を使い、役立てていこうと思います。さらに英語への興味や関心を持ち勉強を行っていき、海外の人とさらに関わりをもちたいです。

現地研修の思い出

私の現地研修の一番の思い出はこれまで会ったことも無いようなたくさんの人と交流ができたことです。まず初日にウェルカムセレモニーでホストファミリーと会った時、ネイティブでとても早い英語にとっても戸惑い不安になりました。そして家に帰りご飯を食べる時や寝るときなど、日本との生活習慣の違いに驚きました。ですが、公園に行き遊んだり、一緒にお菓子やご飯を作っていくうちに、緊張も解け楽しくなってきました。そして慣れてきてすぐに学校があり、また不安が大きかったです。ですが、いざ学校に入ってみると、フレンドリーな子が多く、集団行動ではなく自由な学校のスタイルにとっても惹かれ、不安などすぐになくなり日本に帰りたくなくなりました。学校ではたくさん生徒や先生と交流しとても有意義な時間を過ごせたため短い3日間でした。ホストファミリーにも学校にもなれてきた頃に最終日でも悲しくなりました。最終日はサンフランシスコに連れて行ってもらい、美味しいものを食べたり、綺麗な風景を見たりとても楽しかったです。次は英語を沢山勉強して1週間だけでなく長い期間で海外に滞在し、もっと海外の人と関わりを持ちたいなと思うようになりました。



Pickett Family



Plan (計画)

私は海外の子に積極的に話しかけることに挑戦したいです。そのために出発までに基本的な挨拶や文法、単語を復習しておき、サニーベールではそれを活かしてたくさんの子に話しかけてみたいです。また、私は海外での接客を受けてみたいです。なぜなら私は将来海外で働いてみたいと考えているのでその際に役立つと思うからです。その経験をよりよくするために、出発までに基本的な受け答えを覚えて使えるように頑張りたいです。

Do (実行)

私は海外の子に積極的に話しかけると言う目標に対し、学校生活の1日目、2日目は緊張などでうまく話しかけることができなかったが、3日目は今までよりもたくさんの子に話しかけることができた。また海外の接客を受けるということもできた。あまり良くないところもあったが、ほとんどが丁寧だった。しかしあまりうまく受け答えができなかったため、次うける際はもっと勉強しておきたいと思いました。

Check (評価)

私が学校生活3日目に、今までよりもたくさんの人に話しかけることができたのは、緊張が少しほぐれたのと、このままではいけないと思い、積極的に話しかけようとしたからだと思います。また接客での受け答えがうまくいかなかったのは、接客はどちらかというとフォーマルな英語でその部分やフレーズの勉強があまりできてなかったからだだと思います。

Action (改善)

私は海外の子に積極的に話しかけた経験をもとにその時だけでなく、日常生活でも周りの子に積極的に話しかけられるよう頑張りたいと思います。また、今回の留学でアメリカの自然に興味を持ったため、今後アメリカの自然について調べてみたいと思いました。

現地研修の思い出

私は現地研修の最終日ホストファミリーとモントリーベイ水族館に行きました。残念ながらホストシスターはいませんでした。モントリーベイ水族館は車で1時間半ほどかかりました。車で移動中、ホストマザーと景色について話したりしました。駐車場からモントリーベイ水族館まで少し歩きました。モントリーベイ水族館の周りは昔缶工場だということをホストマザーが教えてくれました。少し進んで入場した後まずはラッコを見に行きました。ラッコは2匹いてどちらもとても可愛かったです。その後も海鳥がいるという珍しいコーナーやサメなどがあるコーナーなどに行き、たくさんの海洋生物を見ました。その中でも1番印象に残ったのはエイのふれあいコーナーです。私はエイが海洋生物の中で1番好きなのですが、エイに初めて触れることができとてもうれしかったです。エイはすべすべしていて可愛かったです。最後にお土産屋さんに寄ってラッコのぬいぐるみなどのお土産を買いました。モントリーベイ水族館はたくさんの海洋生物がいて、私にとってかけがえのない場所になりました。



St. Georges Family



Plan(計画)

ホームステイの人と少しでも話したいです。そのために、出発までにもらった「英会話book」や「ガイドブック」に載っている英語を少しでも覚えて、サニーベールではそれを活かしてコミュニケーションがかわせるようにしたいと思っています。

Do(実行)

「英会話BOOK」や「ガイドブック」に載っている英語を覚えるという目標では、事前研修内で少しずつ覚えていたことで自分の考えや、思いを伝えることができました。しかし、コミュニケーションを交わす目標は、リスニングがついていけないこともあり長く話しを続けることができませんでした。

Check(評価)

自分の考えや思いを伝えることができたのは、出発までに「英会話BOOK」や「ガイドブック」を空いた時間を使い読み込んでいたことが良かったからと思います。コミュニケーションが長く交わさなかった点では、やはりリスニング力がまだまだであることが一番の原因だと思います。リスニング力を上げるために洋楽を聞いたり、海外アニメを見るなどして日常生活のなかで英語にふれることが大切だと思いました。

Action(改善)

今回、ホストファミリーとの会話や学校訪問での経験を活かし、これからは日常生活でも沢山英語で話すことや、洋楽を聞いたり、海外アニメを見るなどしていこうと思いました。また会話ではまず相手が何を伝えたいのかを理解するために単語を覚える、相手の文化を知りたいと思いました。

現地研修の思い出

私は今回現地研修で思い出に残っていることは、三日間学校に行ったことです。授業と一緒に聞いてくれる「バディ」という人に出会いました。初めはお互いに緊張して上手く話すことはできませんでした。授業が始まりました。私が行った学校の授業は、1時限が50分の6時限授業で、休み時間が2回ありました教室に入ると先生や生徒の皆さんが温かく歓迎してくれました。まず名刺交換をしたり挨拶をしました。最初の授業は歴史でした。日本では静かに授業を受けるというのがあたりまえだと思っていたのですが、開始そうそう突然騒ぎ出し始めびっくりしました。先生も注意もなく授業が進みます。私はこれも文化の違いなのかなと感じました。またお昼ご飯の時間も日本と違い、日本では給食などみんな同じ物を食べる人が多いです。しかしアメリカではお弁当もあればカフェテリアで好きなものを食べていました。ピザの大きさも日本より大きくこれもびっくりしました。種類も多く楽しかったです。休み時間は友達と英語で話をすることができました。午後の授業はASTという授業がありました。ASTとは生徒自ら受けたい授業を選べるもので、音楽を受けとても楽しかったです。

アメリカの学校は日本と違い自由で開放感があり、また自主的に学ぶことができる学校なんだと知りました。



Grisel Family



ささき たいち
中学3年生 佐々木 太一

Plan(計画)

今回の研修で自分が1番目標とすることは、自分の将来の夢に1歩でも近づくことです。ホームステイ先で現地の人たちと話すことによって養われるコミュニケーション能力や、シリコンバレーでの現地研修をすることは、自分が将来働く上で大いに役立つと考えています。違う国に行って戸惑うことや大変なこともあると思いますが自分なりに積極性を持ち、努力していきたいです。

Do(実行)

まず、積極性を持って行動するという目標を立てていましたが、現地では、なかなか英語に慣れず、自分から積極的にコミュニケーションを取ることは、あまりできませんでした。しかし、シリコンバレーでの研修やホストファミリーとの交流は、もう一つの目標である、自分の将来目指すものに一歩でも近づくという点において、とても良いものになったと思います。

Check(評価)

まず、英語を使って積極的にコミュニケーションを取ることができなかったのは、英語の文法や正しい単語にこだわりすぎていたことが主な理由だと思います。もう少しジェスチャーや表情などで伝える努力をしていれば、もっと沢山の人とコミュニケーションを取ることができていたと思います。良かった点としては、事前にアメリカの文化を少し調べていたので、アメリカでもあまり戸惑うことなく過ごせていたことだと思います。

Action(改善)

今回の研修では、シリコンバレーの情報企業を沢山みさせて貰ったことにより、自分の工学に対する興味がさらに広がり、今までよりもっと情報系の仕事に就きたいと考えるようになりました。これからも今回の経験を糧にして、勉強に励み、自分の夢に向かって努力したいです。

現地研修の思い出

僕が現地研修で思い出に残っていることは、大きく分けて二つあります。

一つ目は日本とアメリカでは高校が全然違ったということです。自分が中学生でホストファミリーが高校生だったというのがありますが、学校生活の全てが新しいものに感じました。授業の中では、タブレットなどのICT機器がとても活用されていて、とても効率がいいと感じました。また、昼休みはスポーツをしたり、好きなところでご飯を食べたりと、とても自由でいいと感じました。

二つ目は、サンフランシスコで有名なゴールデンブリッジにホストファミリーで行ったことです。多くのツーリングをしている人がいて、自分もまた機会があったらやってみたいと感じました。また、海林などの自然がとても雄大で圧倒されました。次にサンフランシスコのダウタウンに連れて行ってもらいました。急な坂が沢山あり、家の色がカラフルで印象に残りました。最後の日をホストファミリーと過ごすことができとても良かったです。

この他にも沢山思い出を作ることができて感謝しかありません。



Azriel Family



高校2年生

しんたく ゆま
新宅 由麻

Plan(計画)

アメリカ研修では積極的にホストファミリーとコミュニケーションを取ることを心掛けたいです。なぜなら今年の冬のオーストラリアでの短期留学で文法や語法ばかり気にして自分の意思を上手く伝えることが出来ず、ホストファミリーとぎくしゃくしてしまうことがあったからです。そのために自分が今話すことの出来る最大限の英語を用いて自分の意思を伝えたいと思います。また出発前までに日常的に使える英語を普段から考え、話すようにしたいと思います。

Do(実行)

失敗を恐れずに沢山コミュニケーションを取るという目標について、完全に出来たとは言えません。ホストファミリーとはコミュニケーションをとる事が出来ましたが、日本とは違う文化や風潮に怖気づいてしまい現地での意思疎通は難しかったです。また、咄嗟に単語が出てこなかったりそのために翻訳を使ってしまったりなどして会話が途切れることがあったのが心残りです。

Check(評価)

自分の目標ができなかったのは自分の殻を上手く破りきれなかったことだと思います。場面を考えて事前にコミュニケーションを取る用意などをしていればもっとスムーズにコミュニケーションを取れて自分の殻を破れたのかもかもしれません。

Action(改善)

今回の研修を将来の夢である、商社会社の国際営業部として働くという夢に向かって活かしていきたいと思います。アメリカの経済地盤を直接知れたことは大きな利点になったと思います。大学進学後もこの研修で学んだことや得た知識を自分の研究や論文などに沢山活用していきたいです。

現地研修の思い出

初めてのアメリカということもあってコミュニティセンターに着くまでは緊張していましたが、ホストファミリーの温かい歓迎を受け不安が少し軽くなったのを覚えています。今回の思い出は全部素晴らしいものでしたが、なんといってもスタンフォードの教会やホストファミリーと過ごした5日間のことはずっと忘れられないと思います。多様な人種が集まる国土の広さを様々な場所で感じ、日本とは違うおおらかさに元気づけられたりもしました。ホストファミリーと行ったサンフランシスコでは近距離でゴールデンゲートブリッジを見ることが出来て感動しました。現地の学校登校では日本では考えられないような光景に驚きました。昼食時間が終わっても授業中にご飯を食べている人やお菓子を食べる人、スマホやイヤフォンをつけて授業を受けたりしていても規律が守られているなど感じました。学校登校での1番の思い出はビックサイズな食べ物です。アメリカに行っているとき、空腹を覚えた記憶はありません。美味しい食べ物や優しい人々のおかげで思い出に残る研修になりました。



Civelli Family



中学3年生

すながわ りょう

砂川 諒

Plan(計画)

サニーベールでの研修活動を通して、サニーベールの地元の方々と交流するにあたり英語のリスニング能力だけでなく、スピーキング能力を身につけたいと思っています。また、日本の素晴らしい文化をサニーベールの方々に伝えるだけでなく、アメリカの文化を尊重し、自分の家族や学校の友達に伝えていくこともしていこうと思います。

Do(実行)

ホストファミリーと夕食をとる際に、「いただきます」というふうに、日本語の挨拶を教えたり、学校の友達と日本のアニメの話をしたりしました。ネイティブの英語に触れ、互いの文化を認め合うことができただけでなく、スピーキング能力やリスニング能力を身につけることができました。しかし、現地の方々の英語はとても速く、聞きとることが難しかったので、勉強が足りないことを実感しました。

Check(評価)

お互いの国の文化を伝え合い、認め合うということができたのは、ホストファミリーの方々が僕に優しく優しく接してくれたことにあると思います。最初は、言語の違う国に足を踏み入れることには不安がありました。しかし、ホストファミリーの方々が手厚く歓迎してくださり、優しく接してくれたことで、気軽に話をすることができました。次にアメリカに行く機会があれば事前にもっと勉強をしようと思います。

Action(改善)

ホストファミリーの家に泊まらせてもらい、いつも家事をしてくれる両親のありがたさを実感しました。そして、ホストファミリーの家で皿洗いや、料理を作るのを手伝ったので、我が家でもそれがあたりまえのことになるようにしたいと思います。また、世界の最先端とも言われる場所へ行った経験を活かし、将来就きたい職業を選ぶことに役立てていきたいです。

現地研修の思い出

私は、アメリカの研修でたくさんの思い出ができました。ホストファミリーとお互いの国の文化について話したり、一緒にバスケットボールやマリオカートをしたりしたことは一生の思い出です。そんな思い出の中で特に印象に残っていることが2つあります。1つ目は、ホストファミリーと一緒に夕食を作ったことです。ホストファミリーの得意な料理である、ラザニアの作り方を習い、一からつくりました。会話をしながら楽しく作り、完成した料理はとても美味しかったです。作り方を覚えたので家に帰ってから家族に作ろうと思います。2つ目は、ホストファミリーにサンフランシスコに連れて行ってもらったことです。ビルが並んでおり、まるで東京のようでした。家族や友達へのお土産を買うために歩いて、疲れたので店でぶどうジュースの缶を買いました。その缶は飯塚のスーパーなどで買うと100円程度のものでしたが、6ドルで売られていました。物価の高さに驚き、現在の経済の厳しさに気づかされました。



Babar Family



たむら ねね

中学2年生 田村 寧々

Plan(計画)

私がサニーバール市へ行った時には、学校ではたくさんの友達を作り、ホームステイではショッピングをして自分のコミュニケーション力を試したり、ホストファミリーの方と一緒に思い出を作ったりしたいです。そのために、出発までに共通の趣味や好きな事を知って、盛り上がる会話フレーズやゲームなどを準備して、サニーバールでは謙虚にならずにとにかくコミュニケーションをとっていいこうと思っています。

Do(実行)

学校での友達を沢山作る事を目標にしていたが、現地の生徒が多すぎて名刺交換はできましたが名前を覚える事は難しかったです。ですがホストファミリーと毎日、帰国まであと何日なのかをカウントダウンしたりショッピングしたり、全ての日常で楽しくコミュニケーションをとることができました。

Check(評価)

私が現地の学校の生徒と交流することができたのは、自分の事を伝える英会話フレーズを調べて勉強したからだと思っています。しかし、翻訳を使い、自力で話すことが少なかったのはアウトプットができていないが多かったからだだと思います。事前に、習慣的な英会話の練習をしていれば、もっと自力で話せたと思います。

Action(改善)

ホストファミリーとの日常会話で特に伝えて頂いた、No!!と言いたいときにははっきり言っているという事を活かして、人におびえず言いたいことは言える人になります。また、沢山の人の交流や会話ができただけを活かして、改めて国際交流や語学に興味を持ち、海外や異文化交流を自分の進路の視野に入れて活躍できるように異文化に触れることを習慣にし続けます。

現地研修の思い出

私は現地研修で、沢山の友達を学校でつくることとホストファミリーの方と印象に残る思い出をつくって行くことを目標とし、現地研修を行いました。実際は、現地の学校の生徒と名刺交換を沢山し、積極的にコミュニケーションを取ることができました。学校の生徒は自分の学校の5倍以上の人数で、あまりの多さに驚いたことを覚えています。

ホストファミリーとは、帰国まであと何日なのかカウントダウンしたり、ショッピングをしたりなど、全ての日常で楽しくコミュニケーションを取ることができました。それは事前研修で自分は人見知りを克服して、積極的にコミュニケーションをとることを心がけたからだと思っています。しかし、私は翻訳を使う場面が多く、自力で話すことが少なかったと思います。それは勉強した英語のアウトプットがあまりできていなかったからだだと思います。事前に習慣的な英会話の練習をしていれば、もっと自力で話せたと思います。

私は現地でたくさんの方との交流ができたと思います。この経験を活かして、異文化交流を自分の進路の視野に入れ、活躍できるよう、異文化に触れることも習慣にし、継続していきます。



Shirahatti Family



Plan(計画)

私は自分から積極的に行動してコミュニケーションをとることに挑戦したいです。出発するまでに使えるような単語を覚えたら会話の練習をします。ホームステイや学校生活などで初めて聞く英語や文化があったら躊躇わずに質問をしてアメリカに行ったからこそ知れたということを増やして濃い1週間にしたいです。

Do(実行)

私は積極的に行動してコミュニケーションをとるという目標について出発前に英会話ブックを読んだり洋画を見たりして単語力を身につけたことによりホストファミリーと上手くコミュニケーションがとれたと思います。しかし学校登校では自分から話しかけに行くことはできたけれどその後の会話のスピードについていけず会話を続けることができませんでした。

Check(評価)

ホストファミリーとうまく会話できたのは、事前に好きなことを聞いていたことや疑問に思うことがあればすぐに質問して会話の中で沈黙の時間を作らないようにしたことが主な理由だと思います。しかし現地に行ったことで自分に必要なものはリスニング力だと気づきました。自分にもっとリスニング力があれば、ホストファミリーとの会話や学校登校などで何回も聞き返さずにスムーズに会話ができたとと思います。

Action(改善)

サニールで過ごした1週間で失敗を恐れずに行動することの大切さを学び、自分から話しかけに行くことの躊躇いなくなりました。このことを活かし、これからの学校生活では今までやったことのない係や行事の実行委員、課外活動など様々な新しいことに自分から挑戦していきたいと思います。

現地研修の思い出

私の1番の思い出は学校登校です。初日は色々なことに圧倒されました。

会話をしていくと、ほとんどの人が将来自分がしたいことや自分の意思を明確に持っていて、同年代のはずなのにずっと大人に感じました。授業の中ではお菓子を食べている人、自習の時間に学校を抜け出してケーキを買いに行った人やカラオケを始めて熱唱する人、色々な人がいて面白かったです。そして3日間授業受けた中で2つの授業が印象的でした。1つ目はスペイン語の授業です。日本で行われている英語の授業はほとんど日本語で説明されるけれど、スペイン語の授業では最初から最後までスペイン語で行われていてびっくりしました。2つ目は法の授業です。教室に入るとみんながスーツを着ていて模擬裁判が始まりました。みんなが自分の意見を次々と言っていて、沈黙の時間がほとんどなくアメリカを感じました。授業で模擬裁判がある事は日本ではないので貴重な経験ができたと思います。1週間でたくさんの人に出会い、たくさんのお考え方や人の温かさに触れることができました。温かく受け入れてくれたホストファミリー、1週間サポートしてくださった引率の先生方、研修に参加させてくれた両親には感謝の気持ちでいっぱいです。



Xu Family



中学2年生

はたせ みほ

畑瀬 未帆

Plan(計画)

私は、ホームステイや学校登校などで、とにかくたくさん話すことを目標としています。その理由は、自分が慣れていない「英語」のみの生活を当たり前に行えるように、チャレンジしたいからです。その貴重な経験をより良いものにするために、出発までに日常英語をできるだけ多くマスターしたいと思っています。そしてサニーベールでは、自分の成果を最大限に発揮することはもちろん、自分から積極的に現地の方に話しかけていきたいです。

Do(実行)

私は、Planで掲げた目標を達成するため、事前研修で練習した日常英会話を用いて、現地の人に自分の好みや希望をたくさん英語で話すことが出来ました。学校では、大勢の生徒の皆さんが向こうから話しかけてくれたおかげで、自分も話せました。よりたくさん話すには、異国での一週間という短く貴重な時間を少しでも無駄にしないためにも、もっと自分から交流の輪を広げて、全力で楽しむことがとても大切だなと思いました。

Check(評価)

私が現地の人と英語でコミュニケーションを取ることが出来たのは、事前研修の他に、英会話教室で習った内容の復習方法を自分なりに工夫したり、英語でAIと会話するアプリを使って毎日スピーキング練習をして、正しい発音を習得したりしていたからだと思います。そして何事にも楽しみながら取り組むことで、現地で些細なことでも積極的に話しかけて、たとえ難しくても一生懸命ジェスチャーを使って英語での会話に挑戦出来ました。

Action(改善)

この研修は、夢を実現させてみせるという私の強い気持ちをより一層奮い立たせてくれました。私の目指す通訳士になるには、高い語学力と豊かなコミュニケーション力が必須条件です。私は現地研修で、さらに高度な英語スキルを身につける必要性を改めて実感しました。また、「英語のみの生活を当たり前に行えるようになる」という私のもう一つの大きな目標を達成するためにも、この研修を活かした英語の勉強を毎日続けたいです。

現地研修の思い出

私にとって初めての「海外」。行く前は不安が募るばかりだった。ホームステイ初日の夜、時差ボケに悩まされ気分も下がり、さらに不安が増した。英語は話せるかな、食べ物は大丈夫かな、友達は出来るのか、授業は分かるのかなどとても心配だった。しかし、私のそんな思いは学校に着くと同時に消されていった。どんな時でも現地の生徒の人たちは、私たち日本人生徒に気付くと、すぐに駆け寄って来て笑顔で自己紹介をしてくれた。私は気付くと七十枚くらい用意して行った名刺を初日だけで半分以上も配り終えていた。授業で分からない時は、スクールバディが翻訳を使い詳しく説明してくれた。初対面でも気軽に話しかけてくれる現地の生徒のみなさんのそんな積極性に私は救われ、三日間では足りないと思うくらい、学校登校を楽しむことが出来た。そしてフェアウェルパーティーでは、私が日本人代表のスピーチをしている姿を見て、学校で仲良くなったエマが号泣してくれたことが一番印象に残っている。エマとは帰国後もメールのやりとりをする仲になった。私に貴重な経験を与えてくれたすべての人に感謝したい。この研修を通して私は、何不自由なくいつまでも楽しく話すことができる英語力を身につけたいと思った。私は将来、海外の大学に進学したいと考えている。高い英語力を身につけ、ホストファミリーやエマ、サニーベールで仲良くなった人たちに、成長した姿を見せたい。



Purushotham Family



中学3年生

ひらおか しほ
平岡 志帆

Plan(計画)

私はサニーベールでホストファミリーと本物の家族のようになり、学校ではたくさんの友達を作りたいです。なぜなら、海外の方とコミュニケーションをとる中で、自分の考え方を見直し、新たな発見をしたいからです。そのために出発までに日常で使う英単語を覚えたり、英語で話すコツを研究したりして、スムーズにコミュニケーションを取れるようにしたいです。

Do(実行)

私は、サニーベールでホストファミリーと本物の家族のようになることと学校でたくさんの友達を作ること为目标としていました。しかし、現地では自分の英語力の無さを実感し、生活に必要な英語を話すことに精一杯で上手くコミュニケーションを取ることが出来ませんでした。

Check(評価)

ホストファミリーと上手く話すことが出来なかったのは、現地の英語のスピードについていけず、聞き取ることが出来ていなかったからだと思います。出発前に、英語の映画などを見ていましたが、もっと色々な準備をしておけば良かったと思います。

Action(改善)

ホストファミリーや学校の友達と沢山話し、遊び、関わった経験を通じて、今まで以上に海外の方と関わることに興味を持ちました。これからは、国際的な学部に進んで海外の方と沢山関わり合える職業に就きたいです。また、今まで以上に英語を勉強し、ホストファミリーと対等に話せる英語力を身につけます。

現地研修の思い出

私は、この1週間は沢山の不安で満たされてしまっていた日々でした。まず1日目のウェルカムセレモニーに行くと、ホストシスター1人しか会場に付いておらず、「家族は？」と聞いても「多分来るよ！」と言われるだけで、不安な気持ちになったとともに、アメリカと日本の文化の違いも実感しました。そんな不安な場面から始まった1週間、私の英語力ではネイティブの方の会話についていけないと実感し、その瞬間を過ごしていくことだけで精一杯でした。時差ボケで夜寝れなくてさらに不安が募っていき、「なんで海外に行きたいと思ったんだろう」と自分で自分に問いかける事もありました。この答えが分かったのは帰りの飛行機の中でした。ホストファミリーや学校の友達との写真を見ていると、全ての写真がとても輝いて見えました。そこで、私はこの「輝き」に憧れてアメリカへ来たのだということを感じました。

ホストファミリーとお別れをするその瞬間も、友達が涙を流していても私は悲しいと思うことが出来ず、不安で複雑な気持ちでした。しかし、家に帰った瞬間、もうホストファミリーの家に帰ることはないということを痛感し、とても悲しくなりました。また、もっと話せば良かった、もっとしたいことを伝えればよかったなどたくさん後悔しました。これからは、決してこの後悔を忘れずにいつかまたホストファミリーと会える日が来ると信じて英語力を伸ばします。



Westerberg Family



Plan(計画)

この研修では、将来の進路に役立つヒントやアイデアを得たいと考えています。特に、同じ年代のアメリカの子は、どんな夢を持っていて、それに向けてどんな努力をしているのかを聞きたいです。また、サニーベールにある世界の企業の文化やエネルギーを直接感じたいです。そのため事前に、自分が聞きたい事を英語で言えるよう準備し、うまく英語でコミュニケーションがとれるように練習します。

Do(実行)

アメリカの子どもたちの夢や、それに向けて今取り組んでいることを聞くことができました。また、スタンフォードで会った大学生やホストファミリーとも話をし、大人の方の考えも聞くことができました。サニーベールの街やGoogleの施設を見学、働いている人、住んでいる人を実際に見て、大きなエネルギーと活気を感じることができました。

Check(評価)

ホストシスターが「飯塚から来た子だよ」と紹介してくれたおかげで、3日間の間にたくさんの友達に出会い、私のことを知ってもらうことができました。本当の現地の生徒になれたみたいで、とても楽しかったです。また、街や人をよく観察して日本とは異なる所を探しました。完璧な英語ではなかったと思うけど、気になることがあればたくさん質問をしたので、多くのことを学ぶことができました。

Action(改善)

サニーベールに行き、さらに海外に興味を持ちました。将来は海外で暮らしたいです。ホストシスターがサッカーをやっていました。アメリカでは女の子も活発にスポーツをしていて、趣味でも体を動かしていました。街には、サイクリングを楽しんでいる人をよく見かけました。その姿を見て、私ももっとアクティブに過ごして、色んなことに挑戦したいと思いました。

現地研修の思い出

最終日、私はサンフランシスコに行きました。サニーベールやサンフランシスコの街では、テスラやリヴィアンなどの電気自動車がたくさん走っていて、未来を感じました。手をハンドルから離して、車が自動で運転してくれる様子にとっても驚きました。さらにサンフランシスコの街に出ると、無人自動車のタクシーがたくさん走っているのを見かけました。無人自動車があると聞いていて、実際に見ることができたらいいなと思っていたので、嬉しかったです。その後、ホストファミリーが無人自動車を予約してくれて、車に乗ることができました。運転手がないのに、他の車を避けたり、止まったりする様子がとても面白かったです。

サンフランシスコは坂が多く、カラフルな家が建ち並んで素敵な街でした。特に坂の上には大きな家があり、その中には20億ドルもするそうです。そこには、世界的な大企業で働く人々が住んでいる場所だと教えてもらいました。その後メキシコ料理を食べたくて、坂を降りて行きました。すると、街の様子が大きく変わって日本ではあまり感じることはない、危険な雰囲気を感じました。ホームレスの人がいたり、街が混雑していて、少し怖かったです。同じ街の中でも大きな格差があることを実感し、貴重な体験ができたと思います。



Varghese Family



Plan(計画)

僕は、サニーベール市でのホームステイで、多くの人とコミュニケーションをとることに挑戦したいです。僕は、主要5教科の中では英語が苦手なので、この良い機会です。僕は、文を作る力よりも、単語力に欠けていると自己分析しています。そのため、基礎的な単語の勉強を疎かにせず、意思疎通のための最低限の単語はしっかりとマスターした上で出発したいです。帰ってきたあと、さらに勉強を続けて英語を得意科目にしたいです！

Do(実行)

サニーベール市での研修では、積極的に多くの人とコミュニケーションを取り、計画していた、「異文化交流を通じた理解の深化」を実行することができました。

言語や価値観の違いを感じながらも、自分の考えを伝えたり相手の話を聞いたりする中で多様性の大切さを実感しました。

この経験を今後の生活に活かせたらいいなと思います。

Check(評価)

コミュニケーションを取れた理由は、相手の話をしっかり聞き、尊重する姿勢を大切にしたからです。

異なる文化や価値観に対して柔軟に対応し、相手の立場や考えを理解しようと努力しました。また、積極的に質問をしたり、共通の話題を見つけることができました。

このように相手に寄り添うことが大切だと分かりました。

Action(改善)

サニーベールの研修を通して、多様な文化や価値観に触れ、積極的にコミュニケーションを取る力を養うことができました。今後はこの経験を活かし、異なる文化を持つ人々とも柔軟に関わり、協力し合える関係を築いていきたいです。また自分の視野をさらに広げ、国際的な場でも通用する対応力を身につけていきたいです。

現地研修の思い出

サニーベールでの現地研修は、本当に忘れられない思い出となりました。特に印象に残っているのは、ニキルというホームステイの子と日本語や英語を教え合ったことです。最初は言葉の違いに不安もありましたが、お互いにゆっくり話したり、ジェスチャーを使ったりすることで学び合い、次第に心が通じるようになりました。

また、サンフランシスコの海岸沿いの街にも行きました。思っていたより都会で、驚きました。街の雰囲気や建物が日本と全然違って、とても新鮮に感じました。そこでは家族や友達へのお土産をたくさん買いました。そしてアメリカの学校では、意外にもみんながフレンドリーで優しく話しかけてくれたのが嬉しかったです。友達もたくさんできて毎日が本当に楽しかったです。

この経験を通して、異文化の中で過ごすことの大切さや楽しさを実感し、自分の世界が広がったと感じました。この研修で得た経験や出会いは、これからの自分にとって大きな財産になると思っています。



Nagaraj Family



Plan(計画)

私がサニーバール市でしたいことは二つあります。一つ目は、積極的にコミュニケーションをとることです。会話力を向上させるために、英単語を覚え、会話練習に取り組みます。二つ目は、アメリカと日本の文化の違いを知ることです。その理由は、アメリカは多国籍文化で、たくさんの文化が共存しているからです。そのため、研修一日一日を大切に、精一杯頑張っていきたいです。

Do(実行)

私は積極的にコミュニケーションをとる、アメリカと日本の文化の違いを知るという2つの目標について、行く前に話のネタを考えたり単語の本を読んだりしていたので達成することができました。学校や家などホストファミリーと過ごしていくなかで文化の違いをたくさん知ることができたので、その違いを多くのひとに伝えていきたいです。

Check(評価)

ホストファミリーとたくさん話すことができたのは、出発前に単語の本を毎日読んだことと、英会話の先生のアドバイスを意識して行動したことが主な理由だと思います。しかし、大勢の人たちが話すときはスピードがとても速く、聞き取ることができませんでした。文化の違いを知ることができたのは、日本とアメリカの文化を事前に調べ、直接現地で体験できたからだと思います。

Action(改善)

話すスピードについていけず、会話が聞き取れなかった経験を活かし、これからも英会話のレッスンを続け、時間があるときには単語の本を読んでいこうと思います。直に体験した文化の違いをまわりの友達や次アメリカに行く人たちに伝えていこうと思います。

現地研修の思い出

私は市役所を出発するときから、ホストファミリーと仲良くなれるかという不安と緊張で心臓がドキドキしていました。しかし、到着してから、明るく元気な声と優しい笑顔で話しかけられ、緊張が一瞬で解けていきました。このとき、私は1週間全力で楽しんでいこうと思いました。

たくさんの楽しい思い出がある中で、特に印象に残っていることは2つあります。

1つ目は学校登校です。1日目はとても緊張して何人かしか喋ることができませんでした。その日の夜に反省をして、改善点を意識しながら2日目を過ごす、たくさんの友達ができ、5年生に学校案内があったので5年生とも喋ることができました。3日目は最後の登校日で、プレゼントをもらい、めいっぱい遊びました。

2つ目はホストファミリーとサンフランシスコに行ったことです。有名な場所に連れてってもらい、アイスを食べたり、遊具で遊んだりしながら、とても楽しく充実した日々をおくることができました。サニーバールやアメリカのことについて詳しく教えてもらえてよかったです。また、日本のお米を使ったカレーライスを作ってくれて、感動し、今でもその味が忘れられません。

私はこの研修で新たに目標ができ、その目標が叶ったときにホストファミリーに会いにいこうと思います。



Rana Family



